

A family's positioning background of the patients who are suffering from hepatic cancer resulting from hepatitis C : from the experience of the patients who are aware of their approaching death

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Uchida, Maki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/28527

博士論文審査結果報告書

報告番号 医博甲第2140号
学籍番号 0427022003
氏名 内田 真紀

論文審査員

主査(教授) 稲垣 美智子

副査(教授) 泉 キヨ子

副査(教授) 須釜 淳子



論文題名 A family's positioning background of the patients who are suffering from hepatic cancer resulting from hepatitis C : from the experience of the patients who are aware of their approaching death (C型肝炎由来肝癌患者における家族の位置づけとその背景—死を意識しながら生きる病みの体験から—)

論文審査結果

C型肝炎由来により肝臓癌患者は、他の癌患者とは異なり、癌の再発に伴う治療を受けるたびに命の有限性の自覚が薄まることを、博士前期課程で見出し「継ぎ足される命」と命名した。患者は、家族と終末期を迎える準備をしないままに死を迎えることが多く、家族は戸惑い臨床において、臨床的な問題となっている。

本研究では、これらの結果を基に、この現象が起こる背景を、患者の病の体験から明らかにすることを目的とした。患者21名、家族9名を対象として質的(現象学的)に分析した。

その結果、5つのテーマ(特徴)が見出された。5つのテーマの概略は1)癌が再発し、治療を受けるたびに、自分を救える治療を見つけてくれる医師に、自分の命の終わりをもう少しだけ先のぼしてくるのではないかと期待を捨てきれない。2)同じ病気をもち、同じ医師から同じ治療を受ける同病患者を知ることで、一人でC型肝炎由来癌患者である運命を背負う自分の孤独を緩め、背負い続けることを耐える励みとする。3)家族には、自分に残された時間を有意義なものにするために、C型由来患者でない普通の人としての自分と同じ時間を共に過ごしてほしい。4)家族が困らないように、自分がいなくなる準備を少しずつするが、信頼できる医師が治療をしてくれるので、家族には今すぐでなくても良いと思言わない、5)家族は、患者が助からないのなら、出来るだけ好きなようにさせるのが家族の務めだと思っているが、治らないのに、痛い思いをさせ続けるのは患者のためなのかを一人で悩み続ける。であった。これらにより、患者が終末期までに築いてきた、同じ医師、同疾患患者とのつながりが深さ、家族への役割期待が患者と家族の特徴的な関係を作り上げていることが背景にあることが示された。

審査では、家族のことに触れていない項目が含まることについて討議されが、医師、同疾患患者のつながりの深さが家族との関係の特徴的にしていると説明され適切であると判断した。よって本論文はC型肝炎由来患者の家族ケアの新たな展開を可能にし、臨床看護の実践改善および看護学の発展に寄与するものとして博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。